



① 中禅寺湖における動力船規制の現状

<中禅寺湖における動力船規制にかかる経緯>

時期	内容
平成2年6月	「自然環境保全法等の一部を改正する法律」が公布 車馬の使用等が制限される環境庁長官指定区域(乗入れ規制地区)の指定が可能となる
平成2年11~12月	中禅寺湖動力船実態調査(環境庁実施)
平成3年12月	「中禅寺湖利用適正化推進連絡協議会」設置 (以降、平成18年度まで毎年度開催)
平成4年1月	日光国立公園奥日光地域「車馬等の使用を規制する地域」に指定
5月	自然公園法に基づく許認可業務開始(今市林務事務所)
平成9年12月	車馬等乗入れ規制違反防止/ハトロールの実施 (以降、毎年度1~3回程度実施)
平成10年6月	日光国立公園中禅寺湖船運施設事業及び中禅寺湖周遊船船運施設変更の告示
平成10年6月	「中禅寺湖利用適正化推進連絡協議会」「奥日光自動車利用適正化連絡協議会」が統合し、「中禅寺湖周辺地域利用適正化推進連絡協議会」に名称変更
平成12年4月	日光国立公園奥日光地域の許認可業務の直轄執行化
平成24年4月	中禅寺湖漁業協同組合が、中禅寺湖適正利用のための動力船削減等の取組が評価され、「みどりの日」自然環境功労賞環境大臣表彰受賞

中禅寺湖

① 中禅寺湖における動力船規制の現状

湖の概要
■中禅寺湖は、栃木県日光市、日光国立公園内にある湖。面積約11.62km²、周囲約25km。

湖面利用の状況
■現在は、漁業船、観光船、モーターボート、足漕ぎ等貸しボート、カヌー、アーサー業者、セーリングカヌー愛好家等による利用。

湖面規制の状況
■平成4年1月31日に奥日光地域が自然公園法により車馬乗り入れ規制地域に指定される。
■平成3年以前には1000艘以上の動力船が使用されていたが、平成24年度に使用許可を受けているのは298艘。

日光国立公園奥日光地域「車馬等の使用を規制する地域」(自然公園法)・中禅寺湖周辺地域利用適正化推進連絡協議会
・湖面全体での動力船の使用を規制
(許可不要の動力船)
・地域住民所有動力船
・中禅寺湖漁業協同組合所有の漁船
・河川管理船(栃木県、日光警察署所有)
・船舶運送施設事業船(公園事業)
(申請を要する動力船の種類)
・申請者以外にも貸し出せる漁協預かり船)計200艘まで
・車馬乗り入れ規制以前から使用されていた、漁協が釣り船として承認した日帰り船
・車馬乗り入れ規制以前から使用されていた、遊覧モーターボート
・車馬乗り入れ規制以前から使用されていた、免許講習用動力船

動力船の運航	動力船の特込み	規制	罰則	監視体制
○	不可	自然公園法	有	(漁協による協力あり)

水上バイク	手続	利用区域制限	速度制限区域	発着場所指定	船数制限	利用可能時間
不可 ※規制前から利用していた免許講習業者のみ使用	事前許可申請	有 ※湖西側の動力船利用規制	—	—	—	時期、目的により制限



<他地域の規制状況>

① 中禅寺湖における動力船規制の現状

動力船の運航	動力船の特込み	水上バイク	エレキの使用	規制・ルール	例	
					自然湖	人造湖
×	×	×	○	あり	【自主ルール】青木湖(-)	【自主ルール】霧瀧あけみお湖 【自主ルール】七ヶ宿湖 【条例】千丈寺湖
○	×	○	×	あり	【自然公園法】 中禅寺湖(日光国立公園) 支笏湖(阿蘇国立公園) 本郷湖(富士権伊豆国立公園) 【条例・自主ルール】 霧瀧湖(黒川温泉国立公園) 新瀧湖(西瀬(富士権伊豆国立公園)	—
○	○	×	○	あり	【自主ルール】芦ノ湖(富士権伊豆国立公園)	【自主ルール】朱鳥内湖
○	○	○	○	あり	【条例】 山中湖・河口湖(富士権伊豆国立公園) 浜名湖(浜名湖国立公園) 琵琶湖(琵琶湖国立公園) 【自主ルール】 洞爺湖(支笏湖国立公園) 原野路湖(阿蘇国立公園) 田沢湖(田沢湖池田国立公園) 猪苗代湖(磐梯湖国立公園) 野尻湖(上信越高原国立公園) 十和田湖(十和田八幡平国立公園) 霧ヶ湖(水原城跡国立公園) 三万五湖(磐梯湖国立公園)	【自主ルール】さめうら湖
				なし	—	—

事例1：青木湖

① 中禅寺湖における動力船規制の現状

湖の概要
■青木湖は、長野県北部、大町市に位置する湖。面積約1.7m²、周囲約6.7km。

湖面利用の状況
■透明度が高く、動力船が規制されていることも、のんびりとした手漕ぎボートやカヌー、釣りなどに利用。周辺は、夏はキャンプで、冬はスキーなどで賑わう。

湖面規制の状況
■青木湖では、元々漁業を手漕ぎ船で行っていたが、観光地化が進み、外部から動力船が持ち込まれるようになった。漁協で(=地元住民)で話し合った結果、エレキを含む動力船を全面的に禁止している。日々漁協による監視が行われていることもあり、違反者は見られない。
■仁科三湖(青木湖・中綱湖・木崎湖)のうち、青木湖と中綱湖は青木湖漁協ルールによって動力船を全面禁止しているが、木崎湖(木崎湖漁協あり)は、早くからモーターボートなどのレジャー利用を解禁しているため、利用水重の棲み分けがなされている。

青木湖漁業協同組合の自主ルール
・自然環境保護のため、動力船(石油/電気)の乗り入れ禁止
(地元漁師も動力船の利用不可。事故等緊急用のために1艘動力船を保有しているが、ほぼ使っていない状況)
・地元の漁師(漁協)による監視

動力船の運航	動力船の特込み	規制	罰則	監視体制
×	不可	自主ルール	無	漁協(日々)

水上バイク	手続	利用区域制限	速度制限区域	発着場所指定	船数制限	利用可能時間
不可	—	—	—	—	—	—

出典: 大町市観光協会HP

事例2：野尻湖

① 中禅寺湖における動力船規制の現状

湖の概要
野尻湖は、上信越高原国立公園内にあり、長野県北部の信濃町に位置する湖。面積約24.56km²、周囲約16km。

湖の利用状況
野尻湖では、定期観光船、貸しボートの他、カヌー、ヨット、水上スキー、ジェットスキー、ウインドサーフィンなどの水上スポーツも盛ん。

湖面規制の状況
約22年前、事故防止を目的とした任意団体「野尻湖水上安全協会」発足、自主ルール制定。水上安全協会は、各協会(ウインドサーフィン協会、水上スキー協会、ジェットスキー協会)の役員で構成。その他、野尻湖漁業協同組合。
ジェットスキーを一時的に禁止したこともあるが、野尻湖水上安全協会がルールを徹底させるということで復活。登録船にはステッカーを貼付し、違反行為を見つけた場合は「○番が違反している」ので注意してほしいと協会に連絡が入る。自主ルールではあるが、地域一丸となった監視体制が確保されており、違反者はほぼなし。
以前は動力船持ち込みの当日受付もしていたが、海でジェットスキーを乗った後に野尻湖の水で洗うために来る人もいた。そのため、数年前にルールを見直し、乗り入れは各協会への登録者のみに限っている。

野尻湖水上安全協会の自主ルール
水上スキーやジェットスキーの利用には、各協会への登録が必要(保険加入必須、当日受付不可)、登録は毎年見直し。協会制ルールがあり、侵入禁止区域、デッドスローエリア等を指定。ルールは、毎年見直し・改定を実施。
全てのスロープの設置場所にルールを記載した看板を設置。ルール改定毎に、警察、環境省、河川事務所、信濃町役場と調整し、看板に追加。

動力船の通航		動力船の持込み		規制		罰則		監視体制	
○		○		自主ルール		無		地域(日々)	
水上バイク	手続	利用区域制限	速度制限区域	発着場所指定	艘数制限	利用可能時間	約15分、他動力船は日の出～日没		
可	事前登録	有	有	有	—	—	—		

出典：信州しののねエネルギーシステム研究協会HP

事例3：屈斜路湖

① 中禅寺湖における動力船規制の現状

湖の概要
屈斜路湖は、阿寒国立公園内にあり、北海道道東の弟子屈町に位置する日本最大のカルデラ湖。面積約79km²、周囲約57km。

湖の利用状況
屈斜路湖ではヨットやウインドサーフィン、水上バイクなどのウォータースポーツ、フィッシングなどが盛ん。
水上バイク利用者がUターンを繰り返す、爆音を鳴らすなどの行為により、湖水を楽しむ観光客が危険を感じ、トラブルが多発している。

湖面規制の状況
弟子屈町では、屈斜路湖の安全対策のため関係機関と「屈斜路湖適正利用連絡協議会」を昭和62年に設立。動力船の自粛水域等の自主ルールを定め、安全マニュアルを配布するなど安全対策の普及啓発に努めている。
しかし、違反が増えることもあって監視体制が確立されておらず、また、法的規制では無いことから、ルールが徹底されていない。

屈斜路湖適正利用連絡協議会の自主ルール
・動力船の運航自粛水域の設定
・動力船の運航自粛時間の設定
・動力船の発着場所の指定
・受付手続(当日)
・着岸時はデッドスローで運航
・中島への上陸船舶の徹底
・砂場地区で動力船の徐行帯の設定など

安全マニュアル

動力船の運航	動力船の持込み	規制	罰則	監視体制
○	○	自主ルール	無	協議会(月1~2回)

水上バイク	手続	利用区域制限	速度制限区域	発着場所指定	艘数制限	利用可能時間
可	当日	有	有	有	—	8-17時

出典：しまがえちまち漁業協議会・弟子屈町HP

事例4：十和田湖

① 中禅寺湖における動力船規制の現状

湖の概要
十和田湖は、青森県十和田市・秋田県小坂町にまたがる湖。十和田八幡平国立公園内に位置する。面積約61km²、周囲約46km。

湖の利用状況
遊覧船(規定航路)、スワン・手漕ぎ・モーターボート事業者、個人による持ち込み釣り船、水上バイクが混在。
水上バイクのポータルサイト「JET WORLD」のグレンデ情報に登録。昨夏には、水上バイクイベント(水上バイク体験試乗会、フリースタイルショーなど)を実施。

湖面規制の状況
湖面への規制なし。自主ルールもないが、棧橋の絡みで中心部からの乗り入れはできない。水上バイク関連事業者で走行自粛エリアを設定し、遊覧船付近の走行自粛をHPで呼び掛けている。
利用者同士の軋轢が生じている(水上バイク対手漕ぎボート、水上バイク対遊覧船)。また、陸で静かに楽しんでいる人にとって水上バイクは阻害要因にもなっている。

動力船の通航	動力船の持込み	規制	罰則	監視体制
○	○	無	—	—

水上バイク	手続	利用区域制限	速度制限区域	発着場所指定	艘数制限	利用可能時間
—	—	—	—	—	—	—

出典：環境省十和田八幡平国立公園HP

中禅寺湖における動力船規制の現状

湖の適正な利用を支えているもの

湖面利用のルール「法的拘束力」があるとなおよい + 監視体制

による動力船規制

中禅寺湖の場合は・・・？

- 湖面利用ルール：中禅寺湖周辺地域利用適正化推進連絡協議会
- 法的拘束力：自然公園法の車馬等の使用を規制する地域の指定
- 監視体制：中禅寺湖漁業協同組合の協力

による動力船規制がなされている

↓

中禅寺湖の無秩序な利用が抑制され、環境に負荷を与えずに利用を推進することで、中禅寺湖を利用する誰にとっても「よい湖」でありうる

→中禅寺湖の適正利用につながる！！

②利用者および地域住民の意識調査

	地域住民	中禅寺湖利用者
調査期間	平成24年7月3日～7月20日	平成24年7月29日(日) 8月4日(土)、8月5日(日)
調査方法	回覧板にて中宮祠自治会員に配布、各区自治会委員が回収。	中禅寺湖を訪れた利用者へ直接アンケート用紙を配布し記入を依頼。郵送にて回収。
調査場所	—	・船の駅・湖上デッキ付近 ・中禅寺湖畔ポートハウス ・イタリア大使館別荘記念公園 ・千手ヶ浜バス停付近
配布数	約250世帯	1,744件
回収数	12世帯13名	373件
回収率	5%	21.4%
調査項目	・基本属性 ・中禅寺湖の評価 ・中禅寺湖の利活用方策 ・(利用者のみ)利用者の動向	—

利用者の動向①

②利用者および地域住民の意識調査

船の駅・湖上デッキ付近

【居住地】栃木(3割) + 埼玉(2.5割)
【性別】男性：女性 = 3：7
【年代】50代(4割) + 30・40代(各2割)
【同行者】夫婦旅行(2.5割) + 子連れ家族(2.5割)
【来訪回数】ハードリピーター少ない
【滞在時間】他地点に比べて中禅寺湖での滞在短い
【楽しみ】「自然景観を見る」+「寺社仏閣訪問」

中禅寺湖畔ポートハウス

【居住地】栃木(3.5割) + 東京(2割)
【性別】男性：女性 = 5：5
【年代】50代(3割) + 30・40・60代(各2割)
【同行者】夫婦旅行(3.5割) + 大家族(2割)
【来訪回数】他地点に比べ初来訪者やや多い
【滞在時間】短時間が多い一方、湖畔宿泊も多い
【楽しみ】「自然景観を見る」
+「おいしいものを食べる」

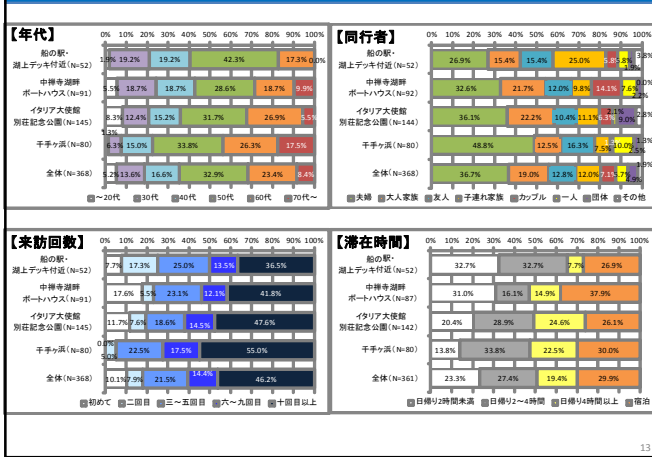
イタリア大使館別荘記念公園

【居住地】栃木(3割) + 東京(3割)
【性別】男性：女性 = 4.5：6.5
【年代】50代(3割) + 60代(2.5割)
【同行者】夫婦旅行(3.5割) + 大家族(2割)
【来訪回数】千手ヶ浜に次いでハードリピーター多い
【滞在時間】宿泊少、日帰りでゆっくり訪れる傾向
【楽しみ】「自然景観を見る」
+「文化・歴史的な施設等を訪れる」

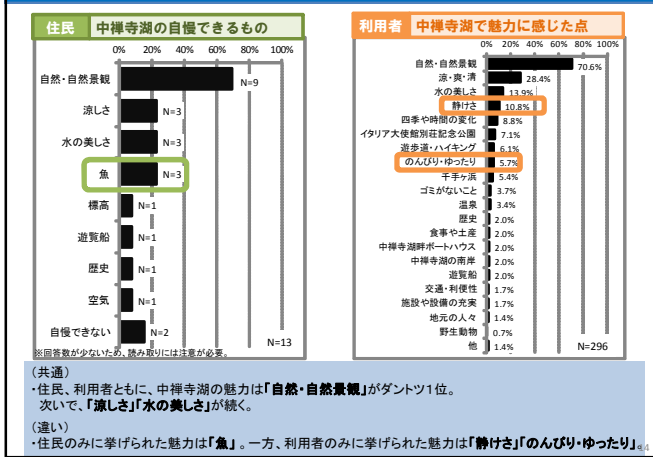
千手ヶ浜

【居住地】栃木(3.5割) + 埼玉(2割)
【性別】男性：女性 = 5：5
【年代】50代(3.5割) + 60代(2.5割)
【同行者】夫婦旅行(5割) + 友人(1.5割)
【来訪回数】10回目以上のハードリピーターが5割超
【滞在時間】日帰りゆつり もしくは 宿泊
【楽しみ】「自然景観を見る」
+「自然の豊かさを体験する」

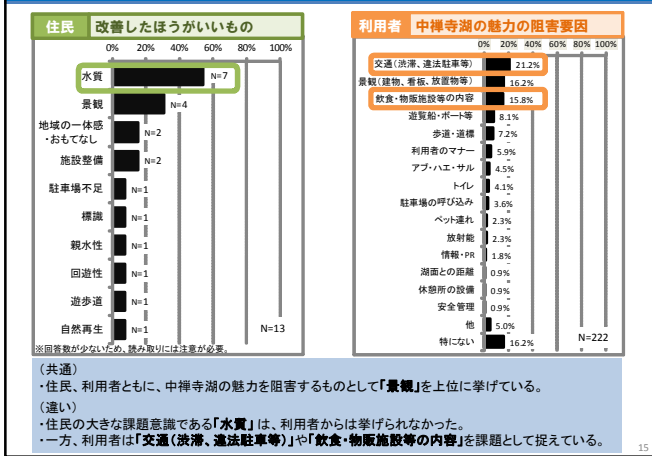
利用者の動向②



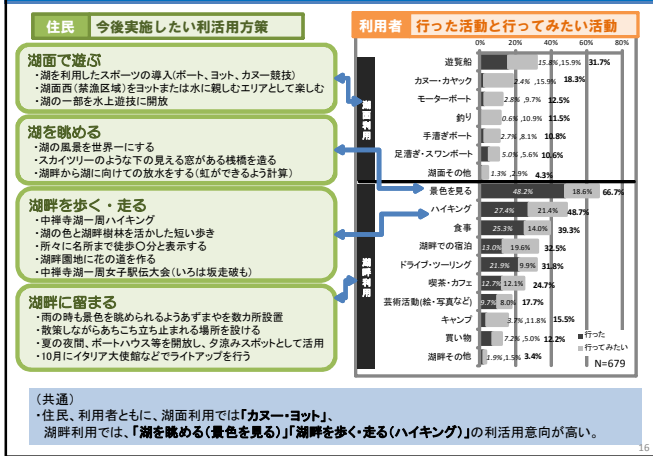
中禅寺湖の評価（魅力）



中禅寺湖の評価（魅力の阻害要因）



中禅寺湖の利活用方策



③中禅寺湖ワークショップ

中禅寺湖の素晴らしい自然環境と明治から昭和初期にかけての華やかな歴史を活かした、中禅寺湖ならではの魅力を実感するため、地域住民および関係者等が参加する「中禅寺湖ワークショップ」を開催した。

＜開催概要＞

日時 平成24年9月23日(日) 10:00～15:30

プログラム

- 午前の部
 - セーリングカヌー体験
- 午後の部
 - 講演
 - ①「国内外の湖からみた中禅寺湖」 秋山治氏(セーリングカヌーイスト)
 - ②「国際避暑地としての中禅寺湖」 福田和美氏(日光近代史研究者)
 - 対談「中禅寺湖の魅力とその活かし方」

参加者数 午前の部8名、午後の部22名

③中禅寺湖ワークショップ

＜セーリングカヌー体験＞

＜講演＞

秋山治氏(セーリングカヌーイスト) 福田和美氏(日光近代史研究者) 会場の様子

講演①「国内外の湖からみた中禪寺湖」 秋山 治氏

世界の湖と日本の湖

・カナディアンロッキーのケブレン湖、ミネオナカレー、レイクパウエルなどは美しすぎて、少々美しすぎて感動しない自然不感症のような状態になった。その他、世界で一番高い湖であるチチカカ湖、1万5千年の歴史を持つレマン湖などいくつもの湖を巡った。
 ・日本の湖は、北は宗谷岬から南は池田湖まで航走した。日本の湖も皆それぞれ美しいが、水質、景色、歴史といい、中禪寺湖が日本一だと思う。中禪寺湖は世界と比べても美しい湖。

中禪寺湖の魅力

・中禪寺湖を含む奥日光地域、かつて明治から大正期にかけてフランス、イタリア、イギリス等々の諸外国の外交官などが、豊かな自然の中でフィッシングやヨットなどを楽しむ避暑地として、にぎわい、あたかもヨーロッパのリゾート文化が出現したかのようであったという過去の輝かしい歴史を想起する。
 ・いい湖の条件は、静寂、美、調和。私が思う守りたい資産はこういった景色。

中禪寺湖の高齢化再発見、中禪寺湖の将来へのランドデザイン案

・この地域の魅力をさらに高めかつての国際的避暑地の雰囲気を感じ出し、にぎわいを創出する。いわば、中禪寺湖を含む奥日光地域をグレードの高い避暑地として単なる開発ではなくリニューアル、再整備すればそれでいい。
 ・イタリア大使館別荘、西六番別荘、中禪寺湖畔ポートハウスは、中禪寺湖の風景とは無縁に存在しているものではない。明治期にはじまる避暑地中禪寺の歴史の中に位置づけられるものであり、それぞれの場所で自然風景と一体となって中禪寺湖の風景を特徴づけてきた。奥日光の歴史資産であるとともに、ヨーロッパの人々も楽しんだ奥日光の風景や湖畔別荘は大きな景観資産だと思う。
 ・中禪寺湖は、足し算でも掛算でもなく、引き算して、残ったものを聞いてほしい。「凜」としてランドデザインを最優先すべきであり、キーワードは「エレガント」「気品」「瀟洒(しょうしゃ)」だと思う。
 ・今の、この中禪寺湖を守ってほしい。これが資産だと思う。

湖面を有効活用する提案

・国際OP線のヨットレースを招致してはどうか。オブティミストは、全幅1.13mの小さなヨット。世界中の人々に親しまれているヨットであり、国際的に15歳までの子供達にだけ許されている。毎年国際レースが毎年行われており、非常に経済効果がある。国際レースの誘致にあたっては、地元の入入体制、宿泊キャパシティ、ボランティアなど課題も多いが、中禪寺湖はセーリングを通じて健全な青少年を育成する最も相応しい湖として観光を浴び、世界のセーラーの心の故郷になる大きなポテンシャルを秘めている。

講演②「国際避暑地としての中禪寺湖」 福田 和美氏

明治維新前後の中禪寺湖：『風景の時代』

・明治時代の奥日光は山岳修験者と湯治客の世界であり、宗教的な自然風景であった。その頃、横浜などに外国人居留地が設けられたが、基本的には「外国人遊歩区域(約40km四方)」の日帰り旅行しか許されなかった。西洋人にとって日本の蒸し暑さは耐え難く、病気が続出、涼しいところで療養したいというニーズを受け、明治7年、日本政府は内地旅行を許可。こうして、特権階級だけでなく、一般外国人も日光へ避暑旅行に来る時代が始まった。
 ・日本語書記官アーネスト・サトウが奥日光の紹介記事を英字新聞に連載したことも日光が観光を浴びるきっかけとなった。
 ・明治18年、東京一宇都宮間の鉄道が開通し、日光は本格的な避暑地に向かっていく。

避暑別荘地へ姿を変える近代の中禪寺湖：『景観の時代』の入り口

・明治23年、日光まで鉄道が乗り入れて旅行者が一挙に増えた。閑静な別荘地であった日光山内・西町付近は騒々しくなくなった。別荘所有者は他にふさわしい土地を求め始め、当時は辺鄙すぎた中禪寺湖畔に目を付けた。
 ・明治22年、現在の第一いろは坂の原型が完成し、中禪寺湖畔が避暑地に変わっていく大きな弾みとなった。人力車に乗っていることが、体の大きな外国人にとってよかった。
 ・三菱外国人顧問のトーマス・グララーが中禪寺湖に別荘を建設。また、駐日英国公使として日本に戻ったサトウの影響で、日光は日本を代表する避暑地へと発展していく。

日光の湖ひら、人間たちの湖へ・・・風景から景観へ

・中禪寺湖の風景の中に現れた変化のシンボルがヨットであった。ヨットだけではなく、登山、フィッシングなどイギリスらしいフィードルスポーツを外交官たちは持ち込んだ。外交官ばかりでなく、在日イギリス人の多くが避暑旅行先に中禪寺湖を選んだ。
 ・セーリングは、マス釣りや双壁をなす中禪寺湖のシンボリックなスポーツとなっていた。

『奥体山ヨット倶楽部』が築いたもの・・・近代中禪寺湖の景観の原点

・中禪寺湖にヨットが増えるに連れ、競いあってセーリングを楽しむようになる。明治39年、マクドナルド英国大使が初代会長となり、奥体山ヨット倶楽部誕生。夏の間に15回程度のレースを開催、避暑地の社交場という役割を果たしていた。
 ・昭和10年には、横浜ヨット倶楽部と奥体山ヨット倶楽部の対抗レースも開催された。

まとめ

・フライフィッシングとヨットは、車輪の両輪のように、中禪寺湖畔の景観とその地域の近代の歴史と文化に大きな役割を果たしていた。自然風景としての中禪寺湖に、人間の営為、フライフィッシングやヨットが加算されたことで、単なる『風景』に生命が宿り、物語のある『景観』として人間の記憶に組み込まれていった。
 ・そうした、我々の記憶の奥深くにある、あの日の理想の景観を再び呼び戻すことが、『避暑地日光、避暑地中禪寺湖』の再生には絶対に不可欠なことではないだろうか。

<参加者の感想(一例)>

- ・ 湖面からの風景がとても新鮮。
- ・ 中禪寺湖は日本の中でもトップクラスの景観ということがとても印象深かった。
- ・ 今まで知らなかった中禪寺湖の素晴らしい歴史を知ることができた。
- ・ 中禪寺湖は大使館別荘があったこともあり、とても静かな品のある湖のイメージがある。“景観”を損なわず、大切な自然を守っていかなくてはいけない。
- ・ 中禪寺湖畔の景観とその地域の近代の歴史と文化に大きな役割を果たしていた車輪の両輪である「釣り」と「ヨット」の重要性を感じた。